

「建設業を軸足としつつ、環境事業にも力を入れてきたい」と語るのは総合建設業山辰組(揖斐郡大野町稲畑)の馬淵健社長(46)。「ハイブリッド・サイフォン送水装置」は全国のため池や砂防ダムの現場で活用され、環境への高い配慮に高い評価を得ている。発電機を動かしてホース内を水で満たすと、電源を切っても送水



近況 環境配慮の技術を開発

が続く仕組み。燃料コストや温室効果ガスの排出量を抑えられる。「国土技術開発賞(国土交通大臣表彰)」を受賞し、「製品化が進み、認知度が広まっている。安定して水を供給できている」と力を込める。根尾川堤防の除草作業を長年携わり、刈草の焼却効率を向上し、煙を減少させる高速焼却架台「モヤッシー」は社員のアイデアから生まれた。「焼却日数が短縮し、働き方改革にもつながる」と胸を張る。

1927年に創業し、今後100周年を迎える。「地域に根ざした企業として、住民の理解を得ながら事業を展開したい」と話す。